

主イエスと私(3)

「中風の男」

(山口 民雄 伝道師)

【聖書のみことば】 マルコ2章1 - 12節

- 1 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。
- 2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。
- 3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。
- 4 群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。
- 5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。
- 6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。
- 7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」
- 8 彼らが心の中でこのように理屈を言っているのを、イエスはすぐにご自分の霊で見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。」
- 9 中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。
- 10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言ってから、中風の人に、
- 11 「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。
- 12 すると彼は起き上がり、すぐに床を取り上げて、みなが見ている前を出て行った。それでみなの方がすっかり驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない」と言って神をあがめた。